

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方策
○教育目標がすみずみまで生かされ、静かな落ち着いた中にも活力ある学校 ○自主・自分で考え行動する児童 自分を律し、自主的、自立的に問題解決ができる生徒 勤勉・心も体も健康で、粘り強く最後まで実践できる生徒 たくましく自己の進路を切り開くことのできる生徒 友愛・自他の良さを認め合って活動する児童 自他の能力を認め、その価値を敬愛できる生徒 ○教職としての見識と指導力を高め、豊かな人間性を培うために、研究と修養に励む教師		小中連携の推進	児童生徒の学力向上に向け、小中で授業改善に取り組む。生徒会、児童会を中心に、連携の取組を充実させるとともに、教員の授業交流も取り組む。
		学力体力の向上	福岡市ICT教育推進校に委嘱されており、一人1台の全ての教科での活用、デジタル教科書の活用など、小・中のICT活用の推進を図る。
		不登校児童生徒の減少	教育相談コーディネーターを中心に、外部機関との連携を深め、一人一人の状況を理解するためのシートを作成するなど、個に応じた支援を行う。
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
小中連携の推進	キャリア教育を基盤とし、学力の情報の共有化を図る小中合同研究を行う。	施設一体型の小中連携校として、合同研修について、研究授業については、事前のリハーサル授業も含め、年間4回の合同授業研究を行った。 朝の挨拶運動について、朝、昇降口で、小中の児童生徒に声かけをするなど、生徒会、児童会が協力して取り組んでいる。毎月10日のいじめに0にむけた「スマイルタッチ」の取組も協力して取り組んでいる。小中の情報交換は、職員室を共用していることから、日常にお互いの情報を共有している。また、毎週月曜日の朝、小中の学年主任ミーティングを開催するとともに、全職員での情報交換も年度当初に実施している。	
	児童会、生徒会を中心に、小中合同行事を推進する。		
	小中の教員による児童生徒の情報交換会の実施する。		
	0		
学力・体力の向上	帯タイム(【中】舞タイム、【小】パワーアップタイム)の取組を推進する。	一人一台のタブレットを活用し、舞タイム、パワーアップタイムに、AIドリルに取り組んだ。中学校の自学ノートの取組については、学年により取組についての差があり、効果的な取組となっていない。 小学校の漢字テスト、算数期末テストについては、全学期実施できているが、2教科の目標値平均90点には、届いていない。(漢字平均90.0、算数平均84.2) 授業改善に向けた授業公開は、小学校全学年が毎月実施、中学校全教員が毎学期実施した。授業後の協議会も行い、授業改善にむけた取組ができた。	
	【中学校】自学ノートを活用した家庭学習の毎日の実施(提出率90%以上)と、担任による点検、助言を行う。		
	【小学校】期末テスト(漢字50問、算数のまとめテスト)の実施と定着(平均90点以上)を図る取組の実施する。		
	授業改善研修のための授業公開を、小学校は毎月全学年、中学校は毎学期全教員で実施する。		
不登校児童生徒の減少	Q-Uアンケート、いじめアンケート(毎月)を実施・検証を行い、いじめゼロへの取り組みを行う。	いじめ0の取組については、Q-Uアンケートやいじめアンケート等は実施できたが、児童生徒間の友達関係について、今度も見守り、指導する必要がある。 不登校児童生徒の理解及び対応について、大学教授等の専門の先生からのオンラインによる研修を実施できた。 不登校児童生徒(30日以上欠席児童生徒数)については、小学校は22名中12名が学級復帰又は改善、中学校は、18名中13名が学級復帰または、改善している。	
	不登校児童生徒についての職員研修を年間3回以上実施する		
	不登校及び長期欠席児童生徒の減少		
	0		
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
コロナの状況がなかなか改善せず、難しい学校運営をしいられる中、工夫して学校行事を行っていただいている。ことは、大変評価します。また、不登校児童生徒に対する対応もしっかり取り組んでいるようですので、今後も引き続き対応してほしいと思います。			